

授業科目 (ナンバリング)	臨床心理学 (N4F407) (実践的教育科目)			担当教員	中村 尚生 (実務経験のある教員)		
展開方法	講義	単位数	1.5 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
臨床心理学とは、カウンセリングの知識やノウハウをベースとした、自己・そして他者の心理学的理解の過程を学問として体系化させたものである。本講義では、臨床心理学の概要について講義し、心理学的診断、治療、予防のために必要な知識の修得や事例検討を通して、現場での対人援助のあり方について学び、薬の専門家として十分なコミュニケーションを備えること、および薬の専門家として高度化・複雑化する社会の医療ニーズに対応するために必要な知識を備えることができることを目標とする。							③⑤⑦⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力	・カウンセリングの理論や技法を適切に理解することができる。 ・医療現場で起こり得る心理的諸問題について深く考察することができる。				・小テスト ・論述試験		10% 20%
情報収集、分析力							
コミュニケーション力	・薬の専門家に求められる臨床心理学的基礎知識を理解し、カウンセリングマインドの心得を修得することができる。 ・十分なコミュニケーション能力を活用することができる。				・課題レポート ・論述試験		10% 40%
協働・課題解決力	・チームアプローチを行う際、自己の能力の限界を認識し、協調的態で薬の専門家としての役割を果たす姿勢を修得することができる。				・課題レポート ・論述試験		10% 10%
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
定期試験の成績を70%とし、論述試験を行う。課題レポートおよび小テストの成績を30%とする。課題レポートは、授業中に実施するレポートの内容を評価し、次回の授業でフィードバックを行う。小テストは、授業中に実施する空欄補充問題の正答率を評価する。定期試験は、論述試験として最終レポートを作成する。最終レポートでは、臨床心理学に関する基本的な概念について理解した上で、仮想事例に対する適切な臨床心理学的援助や、対人援助職としてのコミュニケーションのあり方について、どの程度主体的かつ丁寧に自分の意見を述べるかを評価する。							
授業の概要							
授業では、人間理解の理論及びカウンセリングの諸技法について、教科書の内容に担当教員の実務経験を踏まえて講義を行う。また、医療現場における対人援助のための考え方や連携のあり方などについて理解を深める。基本的には教科書に沿った内容を中心に講義を進め、適宜プリントを配布してより具体的な理解を促す。授業内で実施する課題レポートは、受講生の積極的な取り組みを求め、それに対するフィードバックやディスカッションを行う参加型の学修を目指す。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、112.5分とする。							
教科書・参考書							
教科書：杉原一昭監修、渡邊映子・勝倉孝治編集『はじめて学ぶ人の臨床心理学』中央法規 参考書：井手口直子著『わかりやすい薬剤師のためのカウンセリング講座』じほう 指定図書：杉原一昭監修、渡邊映子・勝倉孝治編集『はじめて学ぶ人の臨床心理学』中央法規							
授業外における学修及び学生に期待すること							
近年、薬剤師にとってカウンセリングマインドの修得は非常に重要なテーマとなっている。その自覚を持ち、医療現場での患者さんとの接し方について「どうしたらいいのか」「何を気づいてあげられればいいのか」を考える時間を作る。また、授業への積極的な姿勢で臨み、遅刻・授業中の私語等学修態度が悪い者には厳しく対処する。 ※オフィス・アワー： 授業開始時に指定する。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習	到達目標 番号*
1	臨床心理学とは①	本講義全体についてのオリエンテーションを行い、臨床心理学とは何か、その誕生と発展について理解する。	予：臨床心理学の歴史について調べる 復：各理論を覚える	
2	臨床心理学とは②	正常と異常、心理臨床家の倫理について理解する。	予：臨床家の倫理を覚えておく 復：自分の考えを持つ	68
3	コミュニケーション	意思や情報の伝達に必要な要素、相手の立場や文化などの違いにより異なるコミュニケーションのあり方について理解する。	予：コミュニケーションのあり方を考える 復：コミュニケーションのあり方を理解する	41/42/43
4	カウンセリングマインド	薬剤師に望まれるカウンセリングマインドとそれを活かした基本的応答技法について理解する。	予：カウンセリングマインドを調べる 復：応答技法を理解する	46/47/48
5	心の仕組みと人の発達	自己概念やパーソナリティ理論について理解し、対人関係に影響を及ぼす心理的要因を理解する。	予：パーソナリティ理論を調べる 復：理論を理解する	44
6	アセスメント・診断	心理アセスメント、アセスメントの方法と問題点について理解し、相手の心理状態とその変化に配慮し適切に対応する力を養う。	予：アセスメントを調べる 復：対応方法を考える	45
7	トリートメント・治療	心の治療とは何か、治療構造、治療実践の基礎について理解する。	予：心の治療について考える 復：実践方法を考える	49
8	心理療法①	心理療法の伝統的な技法である精神分析、行動療法、来談者中心療法について概説的に理解する。	予：心理療法を調べる 復：来談者中心療法を理解する	50
9	心理療法②	その他の心理療法として、家族療法、催眠療法、アサーショントレーニングなどについて理解し、対立意見を尊重し、協力してよい解決法を見出すことができる知識・技能を身に付ける。	予：各心理療法を調べる 復：心理療法の知識を覚える	50
10	心の病い	依存症、統合失調症、うつなど、様々な心の病いについて理解する。	予：精神疾患を調べる 復：精神疾患の知識を覚える	50/51
11	障害者の心理	様々な障害をもつ人の不自由と心理的問題の関連について理解する。	予：障害の捉え方を考える 復：諸問題を理解する	
12	事例検討①	具体的なカウンセリングケース（うつ）について体験的に検討し、患者の気持ちについて討議しその知識や態度を得る。	予：「うつ」について調べる 復：事例を振り返る	47/48 50/51
13	事例検討②	具体的なカウンセリングケース（不安障害）について体験的に検討し、患者の気持ちについて討議しその知識や態度を得る。	予：「不安障害」について調べる 復：事例を振り返る	47/48 50/51
14	チームアプローチ①	チームの中での自己の能力の限界を認識し、協調的態で役割を果たす姿勢を理解する。	予：チームアプローチについて考える 復：自己覚知を行う	55
15	チームアプローチ②	事例検討を通して、チームの中で必要に応じて他者に援助を求めることのできる態度を養う。	予：対人援助について考える 復：事例を振り返る	50/51
16	定期試験	論述試験（最終レポート）		

注) 上記の第1回～第15回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。

\*到達目標番号と到達目標の対応は、巻末のコアカリ SB0 番号/項目対応表を参照して下さい。